



菅波 茂

3月14日。AMD Aザンビア支部が発足した。ザンビアは8カ国に囲まれたアフリカの内陸国で、隣国のモザンビーク、アンゴラ、ルワンダ、旧ザイルなどが内戦で国土が荒れに荒れているにもかかわらず、内戦のない珍しい国である。1980年代は世界的な銅産出国として突出した豊かさを誇り、すべてが無料の社会主義国であった。しかし、90年代は銅価格の急落により、ないないづくしの最貧国である。世界銀行の指導による、痛みを伴う経済構造改革を実施中である。

AMD Aザンビア支部の支部長はチャイナマ大学のムコンベ学長だ。彼はモスタワフ大学医学部を卒業して、英国で眼科専門医の資格

98.4.16

可能性に挑戦

を取得した。このチャイナマ大学は3年間コースの補助医師を養成しており、彼らがザンビアの第一線の医療を担っている。なぜなら、正規の医師の8割はより豊かな収入を求めて、海外に流出しているからである。

この正規の医師不足を補うため、旧社会主義国の医師を雇用している。チャイナマ大学にも、5人のロシア人医師がいた。よく聞けば、彼らはウズベキスタン出身であった。

夕食に招待しての会話は衝撃的だった。アフリカのと真ん中で、アフガニスタン問題を話すことになったのだが、アフガニスタンの主な4派のグループがウズベキスタンの首都タシケントに代表部を設置し、活動しているという。しかも、この医師たちの家族がウズベキスタン

政府高官のため、4派グループとの接触も可能とのことだった。更に、必要があればAMD Aウズベキスタン支部設立も可能とのことであった。

なぜアフガニスタンにこだわるのか。今年2月、アフガニスタン北部で4000人以上の死者が出る大地震が発生した。AMD Aは調整員1人と医師1人を送って、救援活動を実施した。この救援活動が可能になったのは、タリバン派とラバニ派が初めて被災者救援のために暫定的休戦を実施したからである。

「救援活動のために内戦をストップした」。この事実は貴重である。4派グループの中で自然災害被災者相互支援システムが誕生する可能性がある。これは夢のまた夢か。可能性に挑戦するのは、AMD Aの夢でもある。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)